（五）東海道線（現・旧鉄道）

とうかいどうせん

東海道線は、一八七九（明治一二）年京都～大谷間を仮営業し、その翌年には馬場（膳所）まで完成し、一八九八（明治三一）年には複線化されました。しかし、勾配がきつく、一九二一（大正一〇）年に現在の東海道線が完成しました。

48 旧東海道線跡道路

大正時代に現在の東海道線が完成すると、明治初期にできた路線は廃線となり、その多くは名神高速道路に転用されましたが、一部は市道となっています。大塚北溝町で名神高速から西側に離れ妙見寺前を通り、大宅中小路町で再び名神高速に接している道路（市道小山大宅線）がその代表的な部分です。

小山一石畑付近の昔の面影を残す道路。

また小山一石畑付近の名神高速道路の北側にある市道小山四ノ宮線も廃線跡で、今は車の「抜け道」ですが、昔はこの場所に汽車が走っていました。

いずれも往時の旧東海道線跡を知る上で貴重な場所といえます。

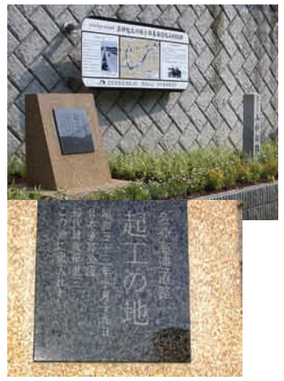
49 旧東海道線（引上げ線）線路下トンネル跡

旧東海道線の山科駅（現在の小野小学校北側付近）から大谷駅（現在の京阪大谷駅付近）の間は、上り方向に向かって急な上り勾配が続いており、当時の時刻表によれば、汽車は下りの一〇分に対し、上りは一七分も時間を要していました。

一九一三（大正二）年、東海道線の列車本数増加による、線路容量不足を緩和するため、大塚地域に「大塚信号所」が設置されました。信号所には、スイッチバック式の引上げ線が設けられました。妙見寺の南にある大鳥居の奥の東側に、煉瓦づくりの壁面がありますが、これは引上げ線の線路下にあったトンネルの入口跡と伝えられており、当時の痕跡を残す貴重な物といえます。

50 名神起工の地

名神高速道路は日本で初めての高速道路ですが、最初の工事は山科から始まり、ここで工法試験などが行われました。



二〇〇八（平成二〇）年八月、小野小学校北側の名神高速道路沿いに、西日本高速道路株式会社関西支社が、起工五〇年を記念し「名神高速道路起工地」プレートを再現した碑を設置し、説明板と花壇が整備されました。

隣には、京都洛東ライオンズクラブによる「旧東海道山科駅跡」碑も移転・建立されています。

51 旧山科駅跡碑

日本ではじめて鉄道が開通したのは、一八七二（明治五）年の新橋～横浜間ですが、すでに、京都～敦賀間で鉄道敷設の測量が始められ、一八七九（明治一二）年には京都～大谷間が開通しました。当時の線路は、現在の名神高速道路京都東インターチェンジ付近（髭茶屋）から大塚・大宅を通り、大宅南部から現在の名神高速道路と重なり西に向かって勧修寺を通り、大岩街道に沿って中茶屋・深草を経て稲荷に入り、現在のＪＲ奈良線を通って京都駅に到るコースでした。その後、明治の末頃から線路変更が論議され、一九二一（大正一〇）年に、現在の路線が開通しました。

52 ＪＲ山科駅旧ホーム跡

旧国鉄山科駅は、一九二一（大正一〇）年八月一日に新路線が開通し、開業しました。当時、改札口を通ってプラットホームに行く通路は、現在のＪＲ山科駅横の南北通路を使っていました。その名残が通路の天井付近に、当時のプラットホームを示した文字として残っています。

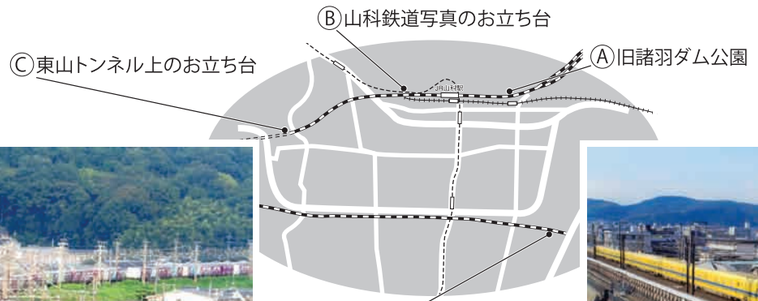
この東海道線も、当初は複線でしたが、戦時中に「輸送力増強策」として上りが一線増設され複単線となりました。戦後になって一九五六（昭和三一）年一一月一九日に電化され、一九七〇（昭和四五）年にさらに一線を追加して複々線となりました。

おもしろ！ 鉄道写真お立ち台

山科は古くから交通の要所といわれていますが、実は鉄ちゃんといわれる鉄道ファンにとって山科はＳＬ全盛の頃から「鉄道写真のメッカ」でした。鉄ちゃんたちが「お立ち台」と呼んでいる撮影ポイントを紹介します。

Ⓐ諸羽神社上にある疏水公園から電車も見学できます。

Ⓑ疏水の散歩道付近から東海道線の「山科大築堤」が見られます。



Ⓒ北花山・六所神社付近から見た「山科大築堤」。

Ⓓ大塚丹田・新幹線音羽トンネル付近。